

令和5年度八尾市産業振興会議 第2回本体会議 議事録	
日時	令和5年11月13日(月) 15時00分～17時00分
場所	八尾商工会議所会館 3階 セミナールーム・多目的室
出席者	<p><委員 10名> 山縣座長、滝本副座長、美馬委員、岡田委員、樫本委員、西川委員、黒木委員、吉田委員、今岡委員、山田委員</p> <p><事務局 8名> 新堂部長、後藤課長、米田参事、山田課長補佐、中谷係長、岡田、杉原、運営支援事業者 肥後氏</p>
<p>－事務局による司会で次第に沿って進行－</p> <p>1. 開会</p> <p>■事務局より、乾委員、樫本委員、佐藤委員、佐原委員、寺西委員、三宅委員、花村委員、服部委員、花村委員の欠席を報告。併せて、全委員19名のうち10名の委員の出席となっており、八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立していることを報告。</p> <p>■魅力創造部長あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p>－山縣座長による進行－</p> <p>(1)チェックイン グラフィックファシリテーターの肥後氏より、チェックインの方法について説明。</p> <p>(2)提言書の内容確認について 座長:今期は、市長に提言書を提出する期となっており、本日はその提言書の内容について確認を行う。 以下、資料に沿って提言書に記載する内容を説明。</p>	

【第1章 やお糠床モデルと実証実験】

座長: やお糠床モデルの説明と実証実験を軸にやってきた経緯を記載している。

やお糠床モデルと実証実験を説明するにあたり、アントレプレナーシップの研究において頻繁に登場するエフェクチュエーションの視点を持って説明する方が理解しやすいと考え、この説明を一章に組み入れた。これは、ゴールを設定せずに進めることで、個々のスキルやノウハウを活用し、状況を改善していく方法である。一方で、行政の進め方はゴールを設定し、進めていくというコーゼーション的なアプローチが一般的で、この方法は一部の場面では有効だが、すべての状況に適しているわけではない。

このモデルは、期限を区切らず、長期的な視点を持ちながらその場その場でよりよい進め方を提案し、実験的に進めている。外観として、收拾がついていないように見えることがあるかもしれないが、実際には正常に動いている。

特に八尾市の場合は、自由な発想から生まれるアイデアを積極的に採用する風潮が長所だと思っているので、これらを適切に説明できるよう1章を記している。

【第2章 具体的な事例】

提言書 目次

第1章 やお糠床モデルと実証実験

第2章 具体的な事例

- ① 小学生向け... コミュニティカレッジ
- ② 中学生向け... ほめ連
- ③ 高校生向け... school Factorism
- ④ 大学生向け... KINDAI Factorism 枝豆プロジェクト
- ⑤ 就活生向け... シューカツ 架の橋 Bar 高校と学生の架け橋
- ⑥ 新社会人向け... 同期会
- ⑦ 社会人向け... あまんと起業塾 ゆる。とカフェ 王塚山校
- ⑧ 地域まわり... まちのコン

第3章 子どもの創造性育成に向けた学校との連携
1. 学校向け資料
2. 工場見学

第4章 考察
1. 従業員

第5章 提言

- 地域エコシステムにおけるアクターとしての行政の役割
- ケアと協働に支えられた価値創造の促進 多様なアクター同士の関係性の「発酵」
- これからの八尾市の産業政策の新たな文脈に向けた糠床モデル

座長: メインは2章および3章となってくる。これまでの産業振興会議では、アイデアや企画を出していくフェーズだったが、今期はそれらを実際にやっていこうという段階であり、それについて記載をしている。そして、具体的な事例を整理するにあたり、世代ごと、つまり小学生中学生高校生、大学生、新社会人、それから年齢関係なく起業しようとしている人とい

うふうに、実は世代ごとにいろんなことをやっているっていうのが、もう改めて振り返ってみると整理ができた。なお、ここに挙げてるのは今回の産業振興会議で始まったものばかりではなく、商工会議所であったり、みせるばやおであったり、同友会が実施しているものなど、いろんな機関の事例が入っている。それぞれを簡単に紹介する。これらを確認していく中で追記や修正が必要となる場合は、随時、修正を行っていく。

■小学生向け

座長:ジュニアエコノミーは商工会議所の青年部が実施している。これらそれぞれをテーマと、目的であるとか実施主体経緯で分類し内容結果を考察している。

■中学生向け

座長:ほめ達の講座などがある。

■高校生向け

座長:愛知県の東邦高校が八尾に工場見学に来て、みせるばやおが受け皿として運営した。

■大学生向け

座長:同友会が枝豆商品開発のプロジェクトをやっており、また、みせるばやおは近畿大学とコラボし、就活生に向けた就活イベントを積極的に行っている。

■新社会人向け

座長:世の中の企業が人材確保や人材育成について重要視されている中で、若者との接点が生まれる機会は求められている。

座長:第2章では、2022年度および2023年度に行われた活動を整理した。これにより、我々がこれまでにどれだけ多くのことを実施してきたかが明らかになる。今後もこの活動は継続していく予定だが、これらの取り組みに関する修正や、新たに追加したい項目があれば、積極的に追加していく。

【第3章 具体的な事例について】

座長:西川委員から学校現場についての貴重な情報を教えていただいたことに基づき、子どもたちの創造性を育む教育に向けて、学校との連携を強化していくことが、今期の重要なテーマの一つとなっており、その中で、八尾市が学校との連携をどのようにバックアップや支援できるかが、一つの重要な軸となっている。

特に、今回どのようなアプローチで進めるべきかという点について、事務的な側面がかなり明確になったことは、大きな成果だった。やりたいという意味を表明することは非常に重

要ですが、それを具体的な形にしていくことがさらに重要です。この点を強調するために、現在の文書にさらに加筆が必要である。学校向けの別冊に関しては、後ほど詳しく説明する。

【第4章 考察】

座長:考察は大きく分けて三つに分けて構成している。

一つ目は、地域エコシステムにおけるアクターとしての行政の役割に焦点を当てている。私の表現が堅苦しいかもしれないが、産業政策課が積極的に様々な取り組みを行っていることを評価し、その正当化を記している。このセクションは、行政がアクターとしての役割を果たす重要性を強調し、その方向での取り組みを推奨している。

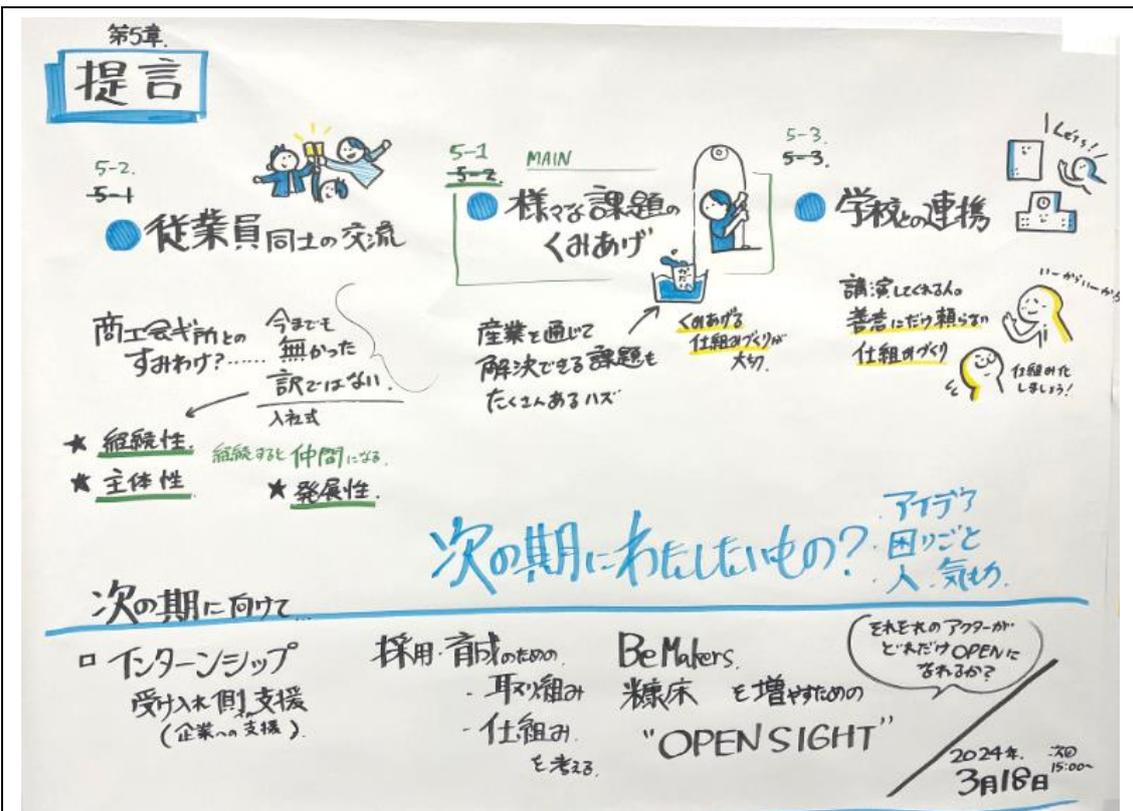
二つ目は、共に支え合い協力するという八尾市の風土文化の重要性を強調している。このような文化は非常に強力であり、産業や価値創造において、この文化を活かすことで、多様な人々が集まり、良い意味での化学反応や発酵のような現象が起こることがポイントになっている。

これが、今後も引き続き大切になる為、この方向性を推進するよう強調している。

三つ目は、「やお糠床モデル」をさらに発展させることに焦点を当て、これまでの取り組みを更に深め、その成果を拡大していく内容である。

【第5章 提言】

座長:提言は三つである。



一つ目は、従業員同士の交流に関するものである。特に、八尾の企業の従業員間の交流が重要だと記載している。最近行われたランチ会の実験は、大きな成果をもたらし、長らくの課題とされている中小企業において新入社員に同期がいないことへの不安の解決に寄与している。このような交流の機会は、新入社員同士の関係性を構築し、離職率の抑制にも寄与すると考えている。八尾市において、この点についてサポートやバックアップの検討を促している。

二つ目は、様々な課題を把握し組み上げることである。これまで多くの貴重な提案をいただき、その中から形にできたものがある。委員より提供された「こういうことをやってみたらどうだろう」という提案を、「やお糠床モデル」の漬物の具材として取り入れていくことで、課題の解決につなげていくことができる。しかし、子供や高齢者の問題、障害を持つ方々が働ける環境の構築など、産業振興会議だけでは解決しきれない課題もある。そういった課題を効果的に取り上げるための仕組みを考え、今後の産業施策に反映させる必要があると考えている。

三つ目は、学校との連携に関するものである。これは既に始まっている取り組みだが、さらに発展させるという観点で提言に含めている。具体的には、来年度予定の講演者に対し、有償の仕組みを作ることで、学校側が安心して取り組めるように、産業振興会議や新たに講演する方々に対して、適切な謝礼を提供することも含めて、今後の設計を考える必

要があります。これをここでは取り上げている。

■提言に対する意見交換をグループワークで実施

(以下、グループワークで出た意見)

委員:第 2 章の「具体的な事例」についてだが、いろんな事例がある中で、「ほめ達」が非常に素晴らしいという話になった。その上で追加となるが、提言書の中学生の項目に「経営者に学ぶ」という講座を入れてほしい。これまでに複数回実施しており、子どもたちに様々な仕事の楽しさについて学んでいただくことができた。

委員:提言書の別冊に関して、その目的と内容が非常にわかりやすく、対象年齢別に分けられている点により、学校側が利用しやすいと感じられる。非常に理解しやすく、良くまとめられている。

委員:現在、日本には個人事業主を含めて 350 万人近くの社長がいる。30 人のクラスに 1 人は社長になる可能性があることを意味している。大人だけの数に限定すれば、社長という存在はさらに身近に感じられる。今後、どのような企業で働いても、副業や兼業が一般的になり、自らを経営するという観点が重要になってくる。小中高生や大学生が早期からこの観点を持つことは効果的であり、『社長は身近な存在です』という話題を取り上げることで、聞き手の興味を引くことができる。

委員:第 3 章の「子どもの創造性教育」について、出張講座だけではなく社会見学を入れてみてはどうか? 行政との連携の仕組みは一つとして、中身を出張講座と社会見学にすることはいかがか。

座長:第 3 章の内容に関して、出張講座を記載することは確定しておるところであり、社会見学についても記載を考える。私自身、小学四年生の時に初めて工場見学を経験し、その興奮と面白さを覚えている。実際の現場を見ることで関心が広がり、理解が深まる効果があると確信しており、出張講座と併せて、実際の現場を体験するコンテンツも第 3 章に含めることを提案する。

委員:八尾には工場が多くあるので、地域的に工場見学は非常にマッチしており、オープンファクトリー事業と八尾市の親和性は高い。

委員:「ファクトリー」という用語を使用すると、活動が産業に限定されたイメージになってしまうのではないかと? 商業、福祉など他の分野も含めた幅広い活動を示す別の表現が必要と感じる。

座長:「オープンサイト」という表現がいいかもしれない。

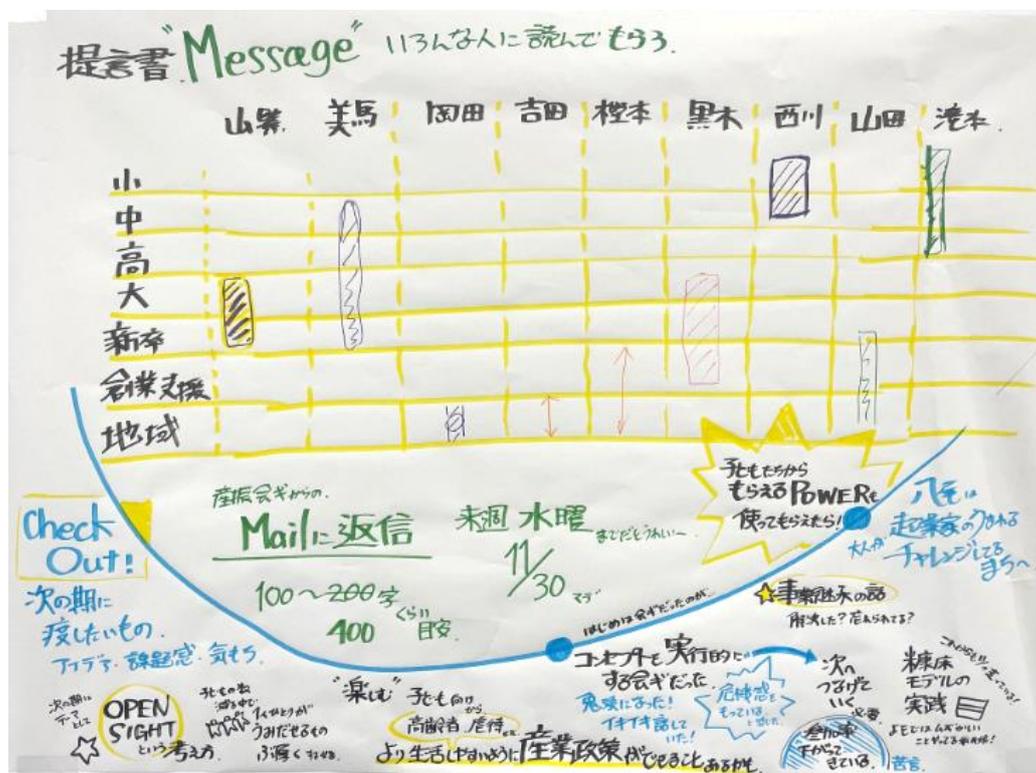
委員:社会見学的环境を整えていくことは非常に難しいことであるので、次の期の課題になっていくと思う。

座長:次期テーマとして、「オープンサイト」の構築は産業振興会議のテーマとして有意義なものになるかもしれない。

■メッセージについて

座長:委員の皆さんから、提言書にメッセージを掲載する作業を行っていただく。以前は子供向けの内容が中心だったが、今回は全世代を対象にしたメッセージの発行を予定する。これまでの提言書が主に子供向けに焦点を当てていたため、今回はそれ以外の世代も含め、幅広い層へメッセージを送る方向で進めていくこととする。

(以下、メッセージの各担当)



(4)チェックアウト

グラフィックファシリテーターの肥後氏より、チェックアウトの方法について説明。
各委員、過去 2 年間で振り返った感想もしくは次期産業振興会議で実施したいことなど。

座長:「オープンサイト」という考え方を次期テーマに採用することは、非常に有効だと私は考える。この考え方は、特に子供の数が減少している現状を考えると重要である。以前は、多くの人々が少しずつ貢献して社会を支えていたが、今は各個人がより大きな役割を果たす必要がある。これを無理なく実現する方法を見つけなければ、社会が維持できなくなる恐れがある。新しい何かを目指す際には、他人の活動に興味を持つことが新たな可能性を開く鍵となる。オープンサイトは、こうした新しいアイデアや取り組みを共有し、刺激を受け合う場として機能すると考察する。

委員:少し見落とされており、十分に取組みられていない重要なテーマがある。それは「事業継承」に関する問題である。次期のテーマでは、この事業継承の問題を詳しく話し合っただきたい。

委員:多くの会議が単なる話し合いで終わる中、この 2 年間は実際に実験を行いながら、様々な具体的な例を生み出すことができた。この取り組みは、まだ完全には完成していないものの、行政が審議するような事項について深く考えるきっかけとなった。この会議は、私にとって非常に勉強になり、トライアンドエラーを繰り返すことで、本当に良い仕組みが形成されていく礎になったと感じている。

委員:子どもたちの成長は八尾市の発展に直接つながると考えている。

委員:産業振興会議で生まれたアイデアや取り組みをより広範囲に普及させていくことが、これからの大きな課題だと感じている。

委員:普通の委員会は、関係者ではない人々が運営していることが多いが、産業振興会議は当事者が参加している為、アイデアの発案から実行に移るまでのスピード感が非常に素晴らしい。この直接的な関与により、効率的で実効性の高い成果を生み出している。

委員:この経験を通じて、私自身が多くを学ばせていただいた。皆さんが楽しみながら取り組む姿勢から大きな刺激を受け、学校もこのような方向性に変化していく必要があると感じて

いる。本当に良い影響を受けたと会議であった。

(5)その他連絡事項について

次回の産業振興会議の本体会議は令和6年3月18日(月)15時00分からを予定。

3. 閉会

■産業政策課長あいさつ

以上